☆Heroldo de HEL
N-ro15…20,NOVEMBRO, 1986

札幌市中央区南1西3札石ビル5F
北海道エスペラント連盟
★ ★ ★　中央オフイス学院 気付
(編集者)　高橋要一，小林貴美子，宮井康夫

ザメンホフ祭にむけて

三沢　正博

ザメンホフは、エスペラントを大衆の手に托した。そんな男だから、彼はキリストのように毎年クリスマス風な生誕祭をやられることを嬉しがっていないのではないか、とふとおもう。

百年たって、世界が変わり、「新人類」が出現しているという。ザメンホフ祭も変ってよかろう。

エスペラント運動は、エスペラント語を学び、それを広める運動であることは、間違いないことだが、この運動は、その運動の中に閉じこもっては、運動自体が発展しないと思う。つまり、エスペラント語の学習を呼びかけるだけでは、労多くして見返りは少な過ぎる。もし、今、ザメンホフが現代日本に生きていたら何をするだろうか、と考えてみたらおもしろい。

英語を斬り、ロシア語を斬り、エスペラントだけが民族友好の唯一の手段だと喧伝するだろうか。そんな心のせまい、そして大柄な態度の男には思われない。青函トンネルならぬ百年のタイムトンネルをくぐり抜けて、いま彼が札幌にあらわれたとしたら、平和で活発な国際交流の姿に歓喜するだろう。ただ一つ、アイヌ民族の話を聞いて、悲嘆にくれるだろう。姉妹都市の交流に驚嘆するだろう。アメリカ文化センター、日ソ協会、日中友好協会などに足繁く通って、できる限りの民族語を駆使して談笑するだろう。彼は英語を非難するどころか、それがこのように現実に交流の手段として機能していることを、誰れよりも喜ぶだろう。そして、市民の多くが、自発的に、ロシア語や中国語や韓国語を学んでいることに、誰れよりも喜ぶだろう。私にはザメンホフという男が、先ず、このように、馬鹿正直なまでに誠実な男だったように思える。商才のきく利己主義者に、どうして世界共通語などという夢が浮かぶだろうか。

そして、「姉妹都市の姉妹都市は姉妹都市」というスローガンを掲げた札幌市民の交流が文字どおり、多言語間交通の困惑に達した時、静かに微笑しながら、おずおずとSemoを人々に配るかもしれない。そして彼自身は、恥ずかしそうに、人混みにかくれてしまいそうだ。無論以上は私の想像するザメンホフ像にすぎないが、こう想像する時、私は彼が好きになる。「エスペラントを学べ」と大書したビラを配りながら、叫んでいるザメンホフは想像しにくいし、エスペラントはそんなことで広まるほど俗物ではない。

逆説的な言い方になるが、エスペラントに閉じこもることなく、エスペラントの外にとび出して、多面的多角的に民族民際交流を拡げていくことこそが、現代におけるエスペラント運動だと思う。だから、私はエスペラント会は、民族友好促進団体だと考えている。特定の民族との二者間友好団体はたくさんあるし、その発展を、エスペランチストは誰れよりも歓迎する。そして、人々が多民族交流を市民的レベルで行う時、はっと気付くであろう瞬間を気長に静かに待っているのである。それは、すぐ間近かに迫っているようにも見える。また遠い遠い将来のことにも思える。理想までの距離は、いずれにしろ、個々の人生の物差しでは計れない。ザメンホフの人生で計れなかった理想に、我々は少しは近づいた。その少しのために、百年の歳月が流れた。

エスペラントは、思った程広まらないと嘆いてあせるのではなく、民族民際交流の驚嘆すべき発展の一助となっている自分の存在に自身を持つことが、ザメンホフの精神を生かすことになるだろう。

「国際人」という言葉は、私は、すきではないが、エスペランチストはエスペランチストである前に思想的にも行動的にも国際人であるべきだろう。真にそうなれば、言語としてのエスペラントは、向うからやってくる。

室蘭の平田岩雄さん死去

10月9日心不全で死去。同氏は明治43年札幌市に生まる。庁立札幌第二中学卒業。室蘭の日本製鋼に勤務。昭和8年にエスペラント独習。JEI、UEA、KLEG、HEL会員。永年室蘭エスペラント会の中心となつて活躍された方です。

ＮＨＫ朝のテレビで ＥＳＰ．グループを紹介

１０月２２日(水)７時５０分からのＮＨＫの全道ニュースの時間に“グループ紹介”のコーナーで約４分間、ＳＥＳの Rondo Pupiloj と Rondo Aprilo の合同による女性会員の学習の様子が紹介された。尚１０月２３日１１時４５分から道央地区のみに再放送された。

内容は、安井規子アナウンサーが主婦のレポーターとしてエスペラントグループの学習の模様を紹介するという形式で、クリスチャンセンターの前からテレビカメラが移動し、皆でテキストの「AMUZA LEGOLIBRO EN ESPERANTO」を読んでいる室内へはいっていく。

画面とナレーションで、エスペラントが作られて来年で１００年、北海道では今年で５０年が経っている、ということが説明される。

続いてレポーターもローマ字読みでテキストに挑戦し、なんとか読みあげる。そのあと１日エス語入門としてレポーターが「こんにちは、安井規子です。」を Gvidanto のF-ino 北畠瞳から習う。

ザメンホフ博士の肖像画が画面に映し出された後で数人に、エス語を学ぶ動機等についてインタビュ-がある。

最後にレポーターが、言葉の大切さと、たった一つの地球が皆平和で仲良くありたい、と締めくくって終る。

なにしろ、４分間程度のテレビ放映ではあったが、インタビューのなかでエスペラントは簡単で、学ぶのは楽しいということが繰り返し語られていました。

放送時間は短かかったけれども、このテレビ番組を見た方のなかにエスペラントについて関心や興味を持つ人があらわれ、何人かでも私達と共に学習を希望する方が居てくれれば幸いと思います。

（阿部 映子　記）

平田岩雄さんを偲ぶ

室蘭エスペラント会　須藤昭三

平田岩雄さんが１９８６年１０月９日亡くなられた、７７才であった。

２ケ月程前に脳血栓で倒れられ、一時小康を得て特養ホームへ移られ、リハビリーに専念されていたが、心不全で急逝された。

平田さんは戦前からのエスペランチストで北海道エスペラント界でも大変貴重な存在であつた。室蘭エスペラント会は戦後、平田さんが創立されたと云ってよい。１９５８年（昭３３）９月２６日であった。記録によると会長が空席で（平田さんのご性格か）、幹事が平田さん、さとう実さん、書記がカモセツコさん、顧問の一人が星田さんである。同時に第一回目の講習会が開かれている。たしか第二回目（翌年）の講習会で私は生徒の一人であつた。新聞の切抜きでは、１９５９年（昭３４）９月８日から１０月３０日まで（週２回）とある。主として平田さんが教えていらしたと記憶している。

１９６０年（昭３５）８月には第２４回北海道大会をわが室蘭で開催しているのである、平田さんが開催地の会長で歓迎の挨拶をしている。現在でも室蘭大会のことが時折話題になって嬉しい思いをすることがある。

また、多くの外国のエスペランチストが来蘭している、S-roセケリ、グンケル、ゲオルグ（ジョージと云うべきか）S-noウースター、F-noズラドヴカ等々、平田さんが先頭に立って案内してくれた。それにまつわる思い出はつきない。来蘭される方達のために度々ご家庭の一部屋を提供し夕べの歓迎会など必ず開催され私達もあつまったものである。

エスペラントは平田さんの人生にとって、大変重要な、また多くの部分を占めていたと思われる。今年の北海道大会にも当然に参加出来ると思つていたようで、病のための不参加を大変残念がっておられた。

亡くなられた日に、お宅へおうかがいしたら、奥様から最後の言葉をエスペラントで、と云うご要請で告別式には私がそれにお応えした次第である。北海道エスペラント連盟からの生花が最前列に飾られ、弔電も寄せられ、室蘭エスペラント会の会長として相応しいものであった。通夜にはエスペランチストが８人も駆けつけてくださった。

苫小牧から影浦ご夫妻、S-ro星田、F-ino北畠、遠く足寄からS-ro浜田、千歳からS-ro水沢、伊達からS-ro村木、そして私。久しぶりに近くの喫茶店で２時間ほど喋った。

いま、私の脳裏に刻まれたほんの一片を平田さんを偲び乍ら書き綴って心から合掌する。

以　上

ＥＳＰ．発表１００周年展示会来年３月開催決る

１９８７年3月１２日から１８日まで札幌市中央区大通西１丁目のＮＨＫギャラリーにおいて“エスペラント発表１００周年展示会”をＳＥＳの事業として開催することが、ＮＨＫの好意ある取計らいによって決定した。

テーマ及び内容についての詳細は、展示会実施についての実行委員会（仮称）の審議を経て次号に発表します。

尚この展示会に出品していただける、書籍、写真、文通のハガキ、手紙、記念の品物等がございましたら御協力を願います。　以　上

☆札幌エスペラント会主催で楽しい企画が一杯の

ザメンホフ祭に参加を！

と　き　：１２月６日(土)午後３時から８時迄
ところ　：札幌市北区北７条西６丁目
　　クリスチャンセンター２階大ホール
かいひ　：会員２０００円
　　家族、学生、nee-istoは１０００円

第１部　（3時～5時３０分）

エスペラントの父・ザメンホフにちなんだ講話、詩や本の朗読、今年の北京世界大会でのエピソード、来年のワルシャワ世界大会参加にあたって、エスペラント版の反核紙芝居“おじいさんのできること”等、司会は坂下正幸

第２部　（5時３０分～８時）

第2部は、全員が参加出来る、楽しい“パーティー”にしたいと思っています。
ちょっとドタバタな「オペレッタ」や、「楽器演奏」、「コーラス」、それに、「ダンス」などのプログラムを用意しました。それから、司会はもちろん、私、田代茂已です。エスペラントが初めての方にも解る様、日本語で話します。
（本当は、自分のためだったりして……）

「★ＥＳＰＥＲＡＮＴＯ」と緑色で胸の部分にプリントされた上質の木綿製生地のトレーナーをRondo-Pupiloj で作り、今年のザメンホフ祭の会場に展示して希望者にお分けすることにしました。価格は３６００円です。
みなさんお揃いで着てみませんか、よろしく。

さきの第７１回ＵＫに際し、姉妹都市提携のある瀋陽市と黒竜江省のＥ会に対し札幌エスペラント会長名でそれぞれメッセージをＨＥＬの訪問団に托した。ハルピンＥ会に対するメッセージの内容を紹介する。尚瀋陽市Ｅ会へのメッセージも同趣旨である。

ハルピンＥ会へ札Ｅ会からメッセージ
1986-07-22

親愛なるハルピン市の同志の皆さんへ！
北京市で開催される第７１回エスペラント大会を機に、中国組織委員会の企画する大会後の中国国内旅行コースの一つに、貴市が選ばれ、地元の同志との親睦交歓会が催されることを知り、それに数人の札幌の同志も参加することを知りましたので、私は、このメッセージを託し、同志的連帯の意思を表明しご挨拶を申上げます。
御承知のとおり、去る６月、黒竜江省の高官が北海道を訪問された際、札幌市で黒竜江省と北海道の間に姉妹州の締結がなされました。
姉妹州の提携は、両州の永遠の兄弟愛と友情を示すシンボルです。また、ハルピン市と札幌市は各州の首都でもあります。従って、両州のエスペラント組織が、共通のＥ語で相互に連絡をとり、友情を深め合うことは、ひとり姉妹州締結の趣旨に合致するのみでなく両国民の相互理解と発展に正しく寄与するものと信じます。
あなた方と私たちとの最初の出会いを記念して、私は札幌エスペラント会の名で、貴市エスペラント会に図書数冊をご寄贈申し上げたく存じます。
どうか、旅行団の一員であり、かつ北海道エスペラント連盟会長でもある北海道教育大学教授　三沢正博氏からお受取りください。
姉妹州都市札幌の名で心からの御挨拶をおくります。

吉原正八郎
（札幌エスペラント会会長）

〈 正誤表並びに人名索引表のお詫 〉

「北海道エスペラント運動史」第２部の正誤表中６６の Tibor Sekerijを Tibor Sekeljに正して下さい。人名索引表中 １１の大和正助を大和庄祐に、１６の新田為夫は新田為男に、６６ Tibor Sekerijは Tibor Sekeljに直して下さい。
ワープロ取扱不慣れのためご迷惑をかけました。
（ 相沢　記 ）

La Futuro de Esperanto
(daŭrigo)

Ragnar BALDURSSON

Ŝajnas al mi ke en Azio, same kiel en Eŭropo k en aliaj mondpartoj, nur ekzistas du egalecaj, akcepteblaj solvoj de internacia komunikado. Unu estas la solvo kiun uzas la Eŭropa Komunumo, t.e. egala uzado de ĉiuj naciaj lingvoj k multa uzado de interpretado, k homa k per komputiloj. Tiu solvo estas tre multekosta, malrapida k tial malfacila. La uzado de komputiloj en tia interpretado estas k restos malkontentiga ĉar ĝi forprenas bezonatajn rektajn homajn kontaktojn k ĝi neniam povos fariĝi tute preciza ĉar lingvoj evoluas k ŝanĝiĝas, k parolante naciajn lingvojn oni ĉiam antaŭsupozas konon de la nacia kulturo k uzas malfacile tradukeblajn, aŭ tute ne tradukeblajn esprimojn.

La alia egaleca solvo de problemo de internacia komunikado estas uzi neŭtralan internacian lingvon, kiu ne estas la nacia lingvo de iu lando k tial ne donas suprecon al iu ajn nacio, k estas samtempe facile lernebla, fleksa k esprimoriĉa. Kiel la esp-istoj ĉi tie povas konstati, tiu lingvo jam ekzistas.

Certe iuj nun demandas: Se Esp-o estas tiel bona solvo de la problemo de internacia komunikado, kial ĝi do ne estas pli vaste parolata, kial oni ne uzas ĝin en oficialaj rilatoj ekzemple en la Unuigitaj Nacioj, k kial neniu registaro oficiale subtenas Esp-on? Mi kredas ke la kaŭzoj ĉefe estas du: Unu estas ĝenerala konserveco de homoj kiuj malfacile akceptas novajn ideojn kvankam ili estas bonaj. Kiam oni proponas al tiaj homoj ke ili lernu Esp-on ili demandas: Ĉu estas tre praktike, ĉu mi profitos per ĝia studado? Kaj sciante ke nur tre malgranda parto de la homaro jam scipovas Esp-on, ili ne volas lerni ĝin, "Ĉar Esp-o ankoraŭ ne fariĝis sufiĉe internacie uzata". Sed tiu argumento kontraŭ Esp-o estas fundamente erara, ĉar nur se tiuj homoj lernos la internacian lingvon, Esp-o povas disvastiĝi k fariĝi vaste uzata internacia lingvo.

La alia k eble pli grava kaŭzo pro la iom malrapida disvastiĝo de Esp-o, estas ke grandaj k fortaj landoj, kies lingvoj estas multe uzataj en internaciaj interŝanĝoj, kontraŭstaras la ideon de neŭtrala internacia lingvo. Al Usonanoj ŝajnas tute bona afero ke la angla lingvo estas multe uzata en la mondo. Ili pensas ke tio estas tute natura afero, kiu montras ilian kulturan k ekonomian suprecon. La saman oni povas diri pri la Rusoj kiuj ŝajne kredas ke la rusa lingvo estas natura internacia lingvo de socialismaj landoj: En la kvindekaj jaroj multaj Ĉinoj do estis devigitaj lerni la rusan. Sed la Ĉinoj ne povis toleri malsuprecon en rilatoj kun la Soveta Unio k la amikecaj rilatoj inter Ĉinio k la Soveta Unio rompiĝis. Kvankam la lingva malegaleco ne estis la plej grava kaŭzo de la malboniĝo de la rilatoj inter Ĉinio k la Soveta Unio, ĝi tamen certe ludis iun rolon por konvinki la Ĉinojn ke la "granda socialisma frato" norda de Ĉinio ne estis sufiĉe frateca.

La kontraŭstaro de la Soveta Unio kontraŭ Esp-o kiel internacia lingvo fariĝis tiel forta dum la registaro de Stalin ke oni malpermesis la esp-an movadon dum ioma periodo, kvankam la sovetaj komunistoj estis favoraj al Esp-o dum la unuaj jaroj post la revolucio. La malpermeso de Esp-o en la Soveta Unio estis granda bato kontraŭ Esp-o ĉar la esp-a movado tie estis relative forta. Kaj kiel rezulto de la kontraŭstaro de la Soveta Unio kontraŭ Esp-o, la esp-a movado en aliaj socialismaj landoj estis malsubtenitaj en la unuaj jardekoj post la fino de la dua mondmilito. Eĉ Ĉinoj ĉesis subteni Esp-on dum ioma tempo en la 50-aj jaroj pro influo de la Soveta Unio. Alia granda bato kontraŭ Esp-o estis la persekuto de esp-istoj en Germanio k german-kontrolitaj landoj dum la dua mondmilito. Antaŭ la milito la esp-a movado en Germanio estis inter la plej fortaj en la mondo. Ankaŭ estas menciinde ke antaŭ la dua mondmilito oni proponis uzi Esp-on en la Ligo de Nacioj, sed tiu propono malvenkis pro la

kontraŭstaro de la Francoj kiuj opiniis ke ĉiuj mondanoj devus lerni la francan.

Konsiderante tiun fortan kontraŭstaron de tiuj potencaj landoj kontraŭ Esp-o oni povas facile kompreni ke Esp-o ankoraŭ ne estas akceptita pli vaste kiel internacia lingvo. Oni eĉ povus diri ke ĝisnuna sukceso de Esp-o spite la malhelpo de grandaj potencaj landoj estas mirinda. Dum la lastaj 99 jaroj kelkcent mil esp-istoj jam pruvis la taŭgecon de Esp-o kiel internacia komunikilo k certigis ke Esp-o ne malaperos kiel vivanta lingvo kvankam diversaj registaroj ne akceptus ĝin oficiale kiel internacian lingvon dum la venontaj jardekoj aŭ eĉ cent jaroj. La unuaj esp-istoj estis tre optimismaj k kredis ke oni nur bezonus kelkajn jarojn aŭ jardekojn por ke la mondo akceptu Esp-on kiel internacian lingvon. Sed jam montriĝis ke la afero ne estas tiel simpla.

Ne sufiĉas pruvi la taŭgecon de Esp-o por konvinki la registarojn de la diversaj landoj ke ili utiligu Esp-on k instruu ĝin en lernejoj kiel devigan fakon. La registaroj verŝajne nur akceptos Esp-on se sufiĉe multaj popolanoj de la koncernaj landoj jam fariĝis esp-istoj aŭ aktive subtenas Esp-on. La esp-a movado en ĉiu lando do devos varbi pli multajn lernantojn de Esp-o k samtempe senĉese klopodi konvinki la potenculojn en la registaro k en aliaj gravaj lokoj pri la praktikeco de Esp-o.

Lastatempe la internacia esp-a movado havis ioman sukceson en tiuj kampoj. Lastan aŭtunon la Eduka, Scienca k Kultura Organizaĵo de la Unuigitaj Nacioj, Unesko, deklaris subtenon al Esp-o dum sia ĝenerala kunveno k proponis al la membroŝtatoj ke ili subtenu la disvastigon de Esp-o.

La rapida evoluo de la esp-a movado en Ĉinio dum la lastaj jaroj estas ankaŭ bona ekzemplo de la varbado de novaj parolantoj de Esp-o en evoluanta lando. Dum la Universala Kongreso de Esp-o kiu estis okazigita en Pekino antaŭ kelkaj semajnoj, estis rimarkinde ke multaj junaj ĉinaj esp-istoj parolis Esp-on tre flue k bone.

Por konkludi: Esp-o klare havas futuron, ĝi ne malaperos kiel vivanta, parolata internacia lingvo de almenaŭ ioma grupo da fervoraj internaciistoj, t.e. esp-istoj. Sed por ke ĝi estu akceptota de landaj registaroj por oficiala internacia komunikado k la plej granda parto de la homaro la nunaj esp-istoj devos multe klopodi. Tiu tasko estas tiel granda ke oni eble bezonos iom longan tempon.

Finfine mi volas danki al vi ĉiuj pro via aŭskultado.

《近況報告》

[渡部隆志]一厚真町在住

白内障の手術の為、残念なことにザメンホフ祭には欠席です。（苫小牧市立病院に１１月末より２週間くらい入院の予定）

１０月２２日のテレビ放送を見ました、北畠さんも元気そうで安心しました。場所柄、札幌の会の行事にあまり参加は出来ませんが、エスペラントは一生続けるつもりですのでみなさん遊びに来てください。

現在厚真では４名で kursoをしています。メンバーは若い人もいて楽しい雰囲気です。

[柴田真吾]

現在洞爺で働いています。風邪のため入院中。（軽いとのことです。）

[留目雅幸] ー札幌在住

会報を通じてＥＳＰ．運動の盛り上がりが伝わってきて嬉しく思います。ザメンホフ祭には下の娘もやっと２才になりましたので、久しぶりに、顔を出せたらと思って楽しみにしています。

（馬場恵美子 記）

瀋陽市での交流集会

苫小牧市　星田　淳

８月６日14時12分、ＪＥＩ旅行団Ｂグループは長春駅発、南へ。ここはかっての満州国(中国では「偽」をつける)の首都新京だった所。列車が走るこの鉄道こそ当時の満鉄、即ち南満州鉄道として、日本の中国侵略のテコの役割を果した線路である。当時の「鉄道守備隊の歌」にはこうある。

「普蘭店をば後にして　大石橋を過ぎ行けば
北は奉天　公主嶺、　果ては新京　一線は
連山関に安東に　　二条の鉄路満州の
大動脈をなすところ　・・・・・・・・。」

この歌と逆方向に列車は南へ、広大な平原、耕作地の中を走り続ける。同行の S-ino宮崎公子（E詩人Ｉ.Ｕ.婦人）は幼い頃、この歌にある公主嶺に住んでいたのだが、車窓からは思出の場所は見えなかったもよう。

18時53分瀋陽(もとの奉天)着。バスで着いた鳳凰ホテル前には地元、外国の E-istojが大勢。ＵＥＡの大会後観光旅行の一団と我々とが、ちょうどここで行き会うので、合同の集会が準備されていたのだ。北京での打合せとはかなり違ってしまったが、すっかりお膳立てが出来ているとなれば、乗せられるより仕方なかった。二階ホールで歓迎挨拶、答礼、ＪＥＩや北海道グループからの本の贈呈、宴会、ダンスパーティと続く。地元と客人あわせて百人ばかりか。ダンスの間、地元幹部達と翌日の予定を打合わせる。地元では野外の交流会を一日がかりで計画しているとの事。一方我々は旅行団として旅行社が立てた計画で行動しているので、予定は市内観光と撫順訪問になっている。結局北京で打合せた通り、個人の自由意志にまかせる、但し団長としては交流会への参加をすすめ、自分も参加する、ときめた。

８月７日、好天の朝。私はＵＥＡ旅行団のバスに便乗、交流会の場、北稜公園へ。地元 E-istoj は多数公園へ集結中だった。バスの中では中国人女性がＥＳＰ．により解説するが、かなりたどたどしい。御苦労さん、がんばって・・・・と声をかけたくなる感じ。この北稜は清の太宗と皇后の墓地、といつても古代帝王の墓の様式により壮大に造られ面積４５０ヘクタール、城門、城壁にかこまれ、多くの建物や地下宮殿まである。全体が広大な公園になっていて中国市民、外国人の行楽地になっている。公園入口から稜墓の城門迄、けつこう距離があつた。バスを降り、見学となるが、バスガイド女性のたどたどしいＥＳＰ．ではとても不充分、あとは他の中国 E-isto有志、私のように、外国人ではあっても漢字を判読してヨーロッパ、アメリカの客人に怪しげな説明(そう間違っていないつもりだが)をやる者など、ぞろぞろ園内へ。一まわりして又城門を出ると、わきの松林の間の草地で緑星旗を並べて集会が始まっている。地元、外国人合わせて４００人位いただろうか。かわるがわる挨拶が続き、楽器演奏、歌に移り、誰でも自由に発表を、という形になった。使われた大型ラジカセは日本製だったが、調子はもう少し、時々雑音が出る。こちらでは「北国の春」がかなり有名と聞いていたので、ＥＳＰ．で歌ってもらおうとＥＳＰ．歌詞の楽譜を渡し、歌つた。あと乾杯の歌 Vivu la stel'も披露。緑色の軍服のような姿の警官もまわりにいて、部外者(？)の接近を警戒し、追い払う様子だった。その中にもE-istoがいて、日本人 E-istinoと話し合うシーンもあった。現地 E-istinojの踊り、みんなフアッションモデルなみのスタイル。外国人 E-istojも次々と話したり歌ったり。我がＢグループから来ていた名古屋の S-ino高木美智子、ここで又美声を披露。この催し、瀋陽市放遊局の S-ro趙（札幌の S-ro木村の文通者）によれば Nia somera festo、会場にあった字幕では辽宁省世界语者夏令营だった。昼近くなって気づくと、観光コースに廻った石崎さんが集合場所が近いので、と会場に入って来ていた。それでは、と午後の市当局の招待に行くため、ここで会場を去る。Ｂグループの市内観光バスに同乗してホテルへもどり、午後は瀋陽重機、市旅遊局幹部招待の見学、懇親会に出席した。ここは三沢さん、栗原さんの報告と同じ場面。私として悩んだのは、そこに E-isto代表として同席した S-ro趙への配慮だった。中国のＥ運動も、国家の指導、方針によって現在があるので社会主義（計画経済）国家と、日本と大きな違いがある。瀋陽でもハルピンでも、Ｅ会長など、中央からの指示で、Ｅ学習を進めろーと言われて、おえら方が就任した所も多く、実際にはＥＳＰ．は殆ど話せない。瀋陽の宴会でＥ．で話せたのは S-ro趙だけ、しかし、その発音は実に聞きとりにくい。そのうち気づいたが、彼はＥ．を中国語ローマ字の発音で読んでいるのだ。Plijuna がプリジョナ

1986. 10. 15

北海道エスペラント連盟 殿

秋冷の候、貴連盟の皆様におかれましては益々御清栄のことと御慶び申し上げます。

扨て、本日御手紙を差し上げましたのは、御願いの儀があってのことで御ざいます。

毎年、日本大会開催期間中にK．K．K．の会議が開かれ、次年度の大会開催地が決められますが、その実態は、次々年度の開催候補地を云々している次第です。そうでないと間に合わないことは御理解いただけることと思います。

そこで、本年の大阪でのK．K．K．会議では、ポスト100周年の即ち101年目の大会開催地を論議したわけですが、満場一致で北海道が最適との結論に到達致しました。

現在貴会は全国のエス界では最も活気溢れる運動を続けておられますし、その成果は大なるものがありますので、是非、この意義ある新しい世紀の開幕を告げる日本大会の開催を御引き受け下さる様お願い申し上げる次第です。

なお、K．K．K．は現在会計が存在しない即ち自己保有資金は無しの状態で運営されております関係上、まことに勝手ながら日本大会開催に至る迄の必要資金につきましては、主催者の御好意に甘んじている次第ですので、この点は御諒承願います。

貴連盟よりの速やかなる御吉報を心より御待ち申し上げております。

K．K．K．を代表して

JEI 日本大会常置委員

JEI 組織部長

高田聚史

Omosahito Takata

では、まず通じない。そんな事を書いて彼に手紙を出した。中国 E-isto の多くは今年初めて外国の同志と話すことができた。その体験を更に発展させてほしい、勿論我々も大いに助けねばと思う。

以 上

〔字上符逸脱のお詫び〕

前号巻頭に掲載の D-ro山賀の寄稿文中、一部の紙面に、当然あるべき字上符全部が逸脱したために、寄稿者は勿論、読者の皆様にも御迷惑をかけましたことを深くお詫びします。（編集部一同）

ＮＨＫのテレビ放映について

三沢ＨＥＬ会長のラジオ出演に次いで、ＮＨＫテレビ「グループ訪問」の番組にＳＥＳの女性達が登場、１０月２２日全道ネットワークで午前７時５０分から４分間放映された。

特に事前打合せがなかったため、取材される側として Rondo-Pupilojの男性会員等の協力を得ながら、ザメンホフの肖像画、緑星旗、外国からの手紙、テレビ写りの良さそうな図書など考えつくものを用意して臨んだ。

１０月１１日午後３時からおよそ２時間録画取り、取材の目的、方法などＮＨＫ側の要望をきき、Rondo-Pupilojと小林さん指導のグループ Rondo-Aprilo の各女性だけの取材となった。初めてのテレビ取材とあって皆緊張していたが、テスト、本番を繰り返すうちに各 Rondoの日頃の雰囲気となり、まずまずの取材になった。

放映の結果、学習希望者や問合せが全道各地からあり、ＳＥＳでは、来年１月から予定をはやめて入門コースの開講を準備している。

《ＳＥＳの学習の動き》

北京大会、成功裡に終ったＨＥＬ大会のあと、毎週土曜日午後に、中央オフィス学院及びホレンコを会場にして４つの学習のための会合が持たれている。

① 入門コース　９月２０日から１３回予定
　ホレンコで午後１時から　講師　宮岸忠孝
② 春季入門コース終了者全員により新たに名づけられた Rondo-Aprilo は中央オフィス学院で午後1時から学習会継続中。指導は小林貴美子。
③ Rondo-Pupilojは午後３時３０分からホレンコで学習会。指導は北畠　瞳。
④ Veteranoj は、午後３時３０分から中央オフィス学院で輪読会。

「Junulara Kunsido」は都合で休講していたが、北京の世界大会から帰られた講師の木村喜壬治のもと、毎週木曜日に中央区北３条西２８丁目にて学習を続けている。

この外に、会員宮沢直人氏が若い友人を集めて毎週学習会をもっている。　その名も勇ましい“Esperantistoj Batalantaj”。

〔来訪者〕

★《Ｗｉｌｌｉａｍ　Ｖａｔｈｉｓ氏》ー
（アメリカ　ワシントン州スポーケン市）

昨年９月何度目かの訪日の折、文通相手のF-ino大和　延を訪ねて初来道し、再会を約していたが、今年は、１０月６日来道、千歳空港で児玉、渡辺の両名が出迎え、支笏湖観光後児玉宅に泊り、７日午前中は児玉氏介添えで帰路とソウルまでの航空券手配、ドル交換、午後から木村氏の案内で希望の札幌ビール園でジンギスカンと札幌ビールを賞味、午後６時から健保会館で歓迎夕食会、前回は学習を始めたばかりの Rond Pupiloj のメンバー、今年は少しでも話せて S-ro Vathis をよろこばせる。７日、８日はクリスチャンセンター泊り、８日朝、河原氏、と北畠が列車で小樽に案内、小樽駅で切替氏と合流して山賀勇氏を訪ねて歓談の後、最近名が知られる様になった北一硝子の展示場を興味深く見学、 S-ro Vathisがかって香港で大使館勤務していた時に中国人の友人から贈られた箸を持っていて、そのために箸置きを欲しいから見立ててほしいとのことで、硝子製の箸置を記念にプレゼント。昼食後、江口宅を経て切替宅へ。そこで切替氏専門のアイヌ学、言語学を聴き、夕刻札幌へ戻り、翌８日羽田、成田を経て、ソウルへ向った。　（北畠　瞳　記）

〔お悔み〕

平田岩雄さま――室蘭エス会の元老――前号で御全快をお祈り申し上げましたが、惜しくも１０月９日午前８時５分急性心不全でお逝くなりになりました。７月下旬に脳血栓で日鋼記念病院へ御入院、経過良好で御見舞の須藤昭三さんと楽しそうにエスペラントで話したり、右手で上手に箸を使って食事されたり、積極的にリハビリに努められて復帰の日の近いことを期待されておられたそうですが、まことに残念でした。御遺族の皆様の胸中をお察し申し上げます。エスペラント関係の供花、須藤さんによるエス語の弔辞、地元の同志は勿論、遠くからも多数の同志がお通夜に出席。故人御生前のエス運動に捧げられた御熱情を讃え御冥福をお祈り申し上げます。（高橋要一　記）

〔原稿募集〕

全道各地の支部の活動、会員の近況、本紙についての意見、感想等を投稿下さい。